

想う、

あなたへ。

天草のいまを
お届けします。

天草諸島各地ではいま、風土を大切に作るものづくりが盛んです。生産者が自らの産物を加工・販売する事に加え、異業種間コラボも続々と。

「いずれは天草へ帰りたい」

「離れて暮らしているけれど、
天草のために何かをしたい」

「天草を、贈りたい」

さまざまな角度から天草を「想う」人にお届けしたい、素敵なアイテムを集めました。

つくりてに直接ご注文いただくシステムなので、ギフトや回禮の相談のほか、帰省みやげの直送リストとしてもうってつけ。

お取り寄せのできるカタログとしてだけでなく、ふるさと天草の活かし方、関わり方を考える際の見本帳としてもお使いください。

天草産品カタログ『arumoonee』

天草を
生きる人の
あたらしい
手しごと



南蛮文化やキリシタン文化、島原・天草一揆からの復興といった歴史の流れと、日々の営みによって培われた天草の「いま」。
天草の隠れた魅力に目を向けて、あらたな視点を添えながらものづくりに挑む人たちがいます。

エキゾチックな文様に
物語と祈りをこめて

更

紗とは安土桃山時代、南蛮船により日本へ渡来した模様布。彩りと模様的美しさから珍重され、帯や着物、茶道具入れなどにも用いられました。江戸後期に入ると、国内でもその技術を身につけた職人たちによって更紗がつくられるようになりました。鍋島更紗や京更紗、江戸更紗をはじめとする和更紗は、日用の生地としても愛されました。天草更紗については諸説ありますが、天草の庄屋役宅に保存されていた更紗の切れ端や台帳などに見られる更紗のなかには、西欧の文化と天草の文化が融合したような図案もあるそうです。一度途絶えて復興し、再び途絶え、とうとう継承者がいなくなってしまう天草更紗。その歴

史に再び灯が灯ることになったのは、平成に入ってからのことでした。

結

婚と同時に夫のふるさと天草へ移り住み、染織家としての活動を続けていた中村いすずさんのもとに、「天草の更紗を復元して欲しい」という話が届いたのです。

ていく「捺染」という手法で染められる、中村さんの平成天草更紗。そのエキゾチックな文様は、手ぬぐいや洋服、お財布や雑貨、アクセサリーのほか、着物、帯やテーブルウェア、陶器などさまざまなものに形を変えながら、天草を物語るテキストイルとして注目を集めています。



天草更紗 染元 野のや
天草市佐伊津町 2212-2
☎ 0969-24-8383

植物のなかに
眠っている色を
呼び覚まし
風土を映す

日々の暮らしと
出会いを大切に
天草を伝える
香りをつくる

対

岸に長崎県の野母崎半島や橘湾を望む天草郡苓北町。東シナ海へとつづく天草灘に接し、天草の中でもいち早く南蛮文化を取り入れた地としても知られています。江戸時代後期、天草が天領となった折には幕府の拠点が置かれ、天草諸島の政治的中枢の役割も担いました。白磁に絵付けを施したアズレージョやペーロン船など、独特の文化が受け継がれるこのまちで、風土を映す染めものに励むのは、『MEGURI Island colours』の光永綾子さんです。

光

永さんが手がけるのは、花や葉っぱ、茎や根、樹皮など、自然界に存在する植物を染料として用いる「草木染め」。四季があり、さまざまな植物が育つ日本において千年以上の歴史を持つ、伝統的な染色法です。植物の種類だけでなく、煮出す温度や時間、色と繊維を結ぶ「媒染剤」として何をどのように用いるかに



よってもその色合いは変わります。この世にふたつとない色を求め、草木染め作家の探求はつづくのです。

な

かでも光永さんは、アカネや藍、クサギに柿渋、びわの葉、タマネギの皮など、身近な山野草を使った草木染めと、型染めを行っています。藍や綿といった染めものの素材を自家栽培する一方で、自家用米や野菜の栽培も行う光永さん。ときには、梅や酵素を仕込むなど、季節の仕事も大切にしています。「夫の生まれ故郷でもある天草で、自然と寄り添う暮らしができていることに心から感謝

しています」と話します。

植

物のなかに眠っている色を呼び覚まし、日によって表情を変える海や、波の音、水平線に沈む夕陽、ときとともに移ろう空の色など、この島がくれるギフトをいかに素敵に表現するか。作家としての試行錯誤をつづける一方で、草木染めを通じて天草を愉しむ染め体験もスタートしました。天草の豊かな時間を味わえるとともに、地元の子どもたちはもとより、県内外から訪れる観光客にも人気です。



MEGURI Island colours

天草郡苓北町坂瀬川 123
☎ 070-4769-2343

※来店はオープンアトリエと染めもの体験のみ（要事前予約）

← P. 19



の香りを取り入れたものも展開予定。天草の香りに、多くの可能性が広がります。

さ

らに三穂さんは、天草のストーリーにインスピレーションを得た香りをつくることにも懸命です。天草産のローズマリーを用いたルームスプレー『SAKIT SU』や、倉岳の山麓で育つホーリーバジルの精油を使ったブレンドオイル『雅歌』、天草ヒノキや晩柑、イチジクを使ったもののほか、今後は構

HIGH BEACH

天草市高浜北 897-26
☎ 0969-42-1812

※来店時は要事前予約

← P. 19

A EAJアロマセラピー

アドバイザー・インストラクターの資格を持つ黒沢三穂さんは、夫婦ともに東京都出身。美しい自然とゆたかな食に魅了され、西海岸の高浜集落へ移住することを決めました。自宅から徒歩1分の松林の向こうはウミガメも訪れる白砂のビーチ。自宅の中で耳を澄ませば、波の音が聞こえてきます。ちいさな集落ならではのひととの距離の近さに、最初は戸惑うこともあったとい

地

元のリゾート宿「五足のくつ」でアロマトリー

いますが、今ではすっかり集落の一員。簡便さを追い求める暮らしとは真逆のスローな毎日。夫婦にたくさんのギフトをもたらしました。「天草に移住して授かった4男を含め、元気いっぱいの子の男の子のびのびと育っているのは、地域の見守りと豊かな自然があればこそ」と三穂さんは語ります。

トメントを提供する一方で、2018年には自宅の一角を改装し、庭師でもある夫の省吾さんとともに念願のサロンをオープンしました。『HIGH BEACH』（高浜）という店名に「この地に根ざす」というふたりの思いがにじみます。ショールームにはくらしの中に取り入れやすい観葉植物やポタニカルアイテムが揃い、奥では精油やハーブを使った癒やし体験を提供する。天草にあるようでなかつ